

フットサル競技規則抜粋

第9条 プレーの開始および再開

試合前

コインをトスし、トスに勝ったチームが試合の前半に攻めるゴールを決める。

他のチームが、試合開始のキックオフを行う。

トスに勝ったチームは、試合の後半のキックオフを行う。

試合の後半の開始時に両チームはエンドをかわり、前半と反対のゴールを攻める。

キックオフ

キックオフは、次のときに、プレーを開始する。または再開する方法のひとつである。

- ・ 試合の開始時
- ・ 得点のあと
- ・ 試合の後半の開始時
- ・ 延長戦の行われる場合。その前、後半の開始時

キックオフから直接得点することができる。

(第3種以下のフットサル競技会においては次の規則を適用する)

キックオフから直接得点することはできない。

進め方

- ・ すべての競技者は、ピッチの味方半分内にいる。
- ・ キックオフをするチームの相手チームは、ボールがインプレーになるまで少なくとも3m以上ボールから離れる。
- ・ ボールはセンターマーク上に静止している。
- ・ 主審が合図をする。
- ・ ボールは、けられて前方に移動したとき、インプレーとなる。
- ・ キッカーは、他の競技者がボールに触れるまではボールに再び触れられない。一方のチームが得点をあげたあと、他方のチームがキックオフを行う。

違反と罰則

他の競技者がボールに触れる前にキッカーが再び触れた場合、違反の起きた地点から行う間接フリーキックを相手チームに与える。ただし違反が相手チームのペナルティエリア内で犯された場合、その場所に最も近いペナルティエリアライン上から間接フリーキックを行う。

キックオフの進め方のその他に違反に対しては、キックオフを再び行う。

第12条 反則と不正行為

直接フリーキックとなる反則

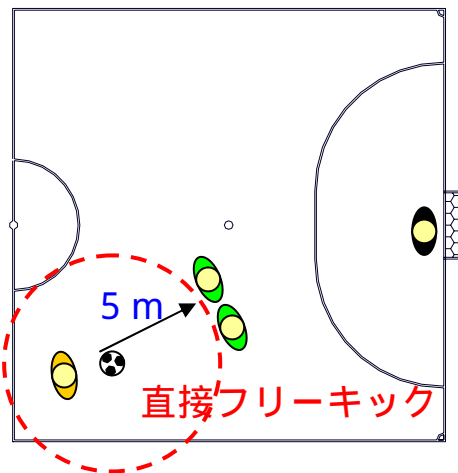
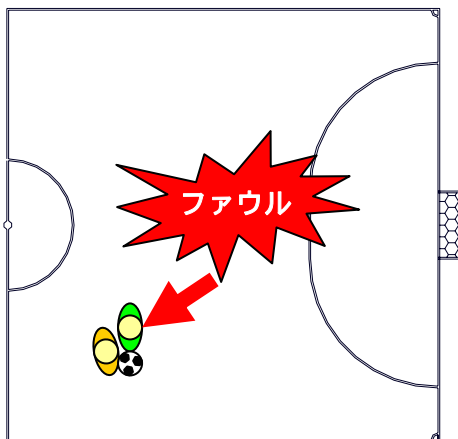
- ・相手をける、またはけろうとする
- ・相手をつまずかせる、またはつまずかせようとする
- ・相手に飛びかかる
- ・相手をチャージする
- ・相手を打つ、または打とうとする
- ・相手を押す
- ・相手を抑える
- ・相手につばを吐きかける
- ・相手がボールをプレーしている、あるいはプレーしようとしているときにボールをプレーしようとしてすべる(スライディングタックル)

ただし不用意に、無謀に、あるいは過剰な力で行わない限り、自分自身のペナルティエリア内のゴールキーパーを除く

- ・ボールを手または腕で意図的に扱う

ただし自分自身のペナルティエリア内のゴールキーパーを除く

直接フリーキックは上記の違反の起きた場所から行う。ただし、フリーキックが守備側チームに対してそのペナルティエリア内で与えられた場合、フリーキックはペナルティエリア内のいずれの位置から行ってもよい。



ペナルティエリア内で攻撃側に
ファウルがあった場合



スライディングタックル

スライディングタックルは、直接フリーキックとなる反則である。ボールに触れると触れないに関わらず、競技者が体を滑らせて相手競技者がコントロールしているボールにタックルすることは反則である。両チームの競技者によってコントロールされていない50-50（ルーズボール）のボールへのスライディングタックルや、体を滑らせないタックル、さらに相手競技者がコントロールしているボールに対して行なわないスライディングタックルは反則とはならない。例えば、シュートブロックのためにボールの前方に体を滑らすことなどである。

なお、ゴールキーパーが自分のペナルティエリアの外に出てスライディングタックルをすれば直接フリーキックで罰せられる。もしその反則が相手の決定的な得点の機会を奪えば、退場を命じられ、レッドカードを示される。

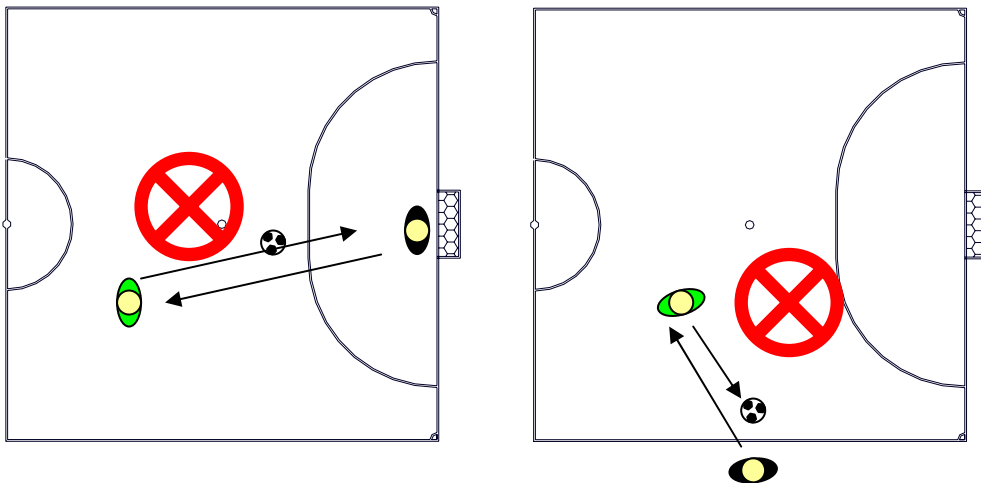
ペナルティキック

競技者が自分自身のペナルティエリア内で上記反則をインプレー中に犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティキックを与える。

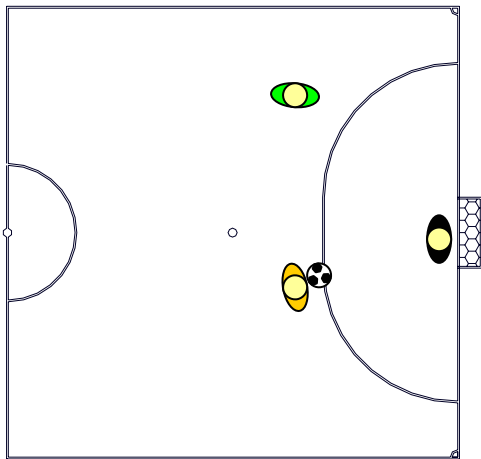
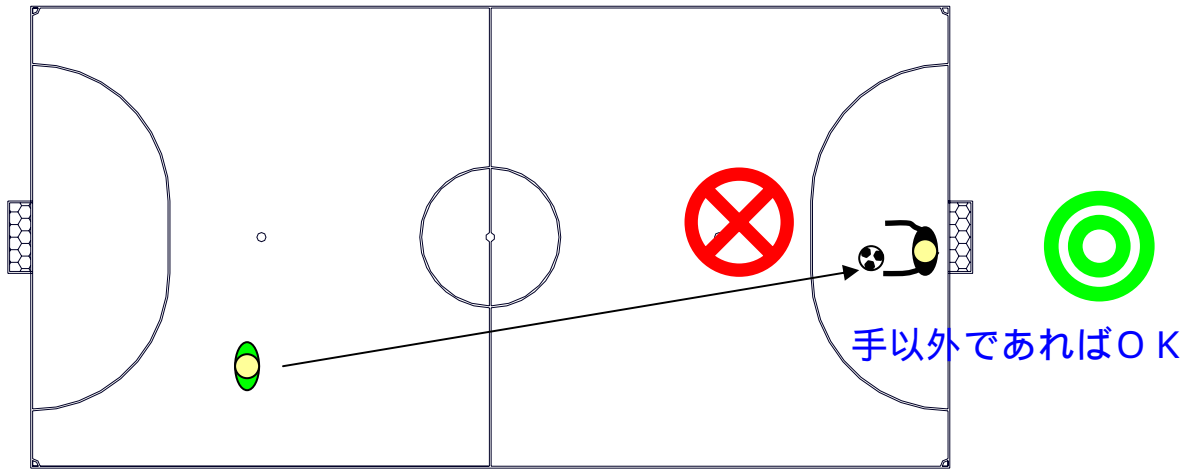
間接フリーキックとなる反則

ゴールキーパーが次の項目の反則を犯した場合、間接フリーキックを相手に与える。

- ・ゴールキーパーが、保持していたボールを離れた後、ボールがハーフウェーラインを越える前に、または相手側によって触れられるかプレーされる前に、味方競技者からボールを受ける。



・味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを手で触れるか手でコントロールする。



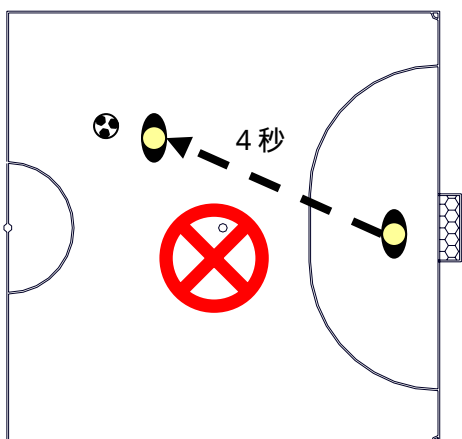
反則が起こった箇所がペナルティエリア内なので相手側のペナルティライン上からの間接フリーキックとなる

・味方競技者がキックインしたボールをゴールキーパーが直接手で触れるか手でコントロールする。



ゴールキーパーはペナルティエリア内でも味方からのキックインのボールを手でプレーすることはできない。
手以外であればOK

- ・自分自身のハーフ内で、4秒を超えてボールを手または足で触れるかコントロールする。

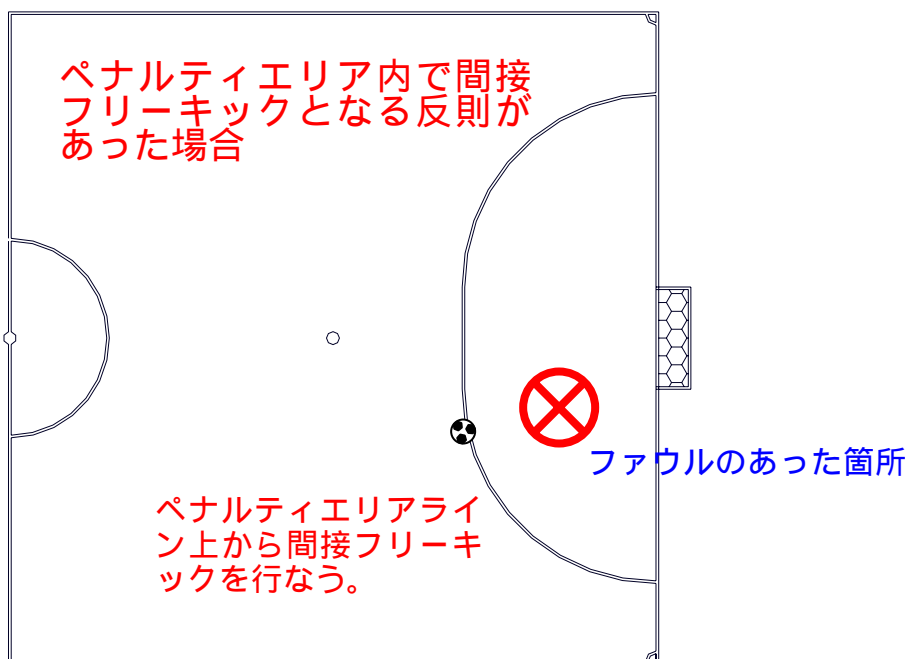


ゴールキーパーは自分自身のハーフ内ではボールを保持してから4秒を超えてプレーはできない
例えばドリブルで4秒以内でハーフラインを越えられなければ間接フリーキックとなる。

競技者が次の項目の違反を犯したと主審が判断した場合も、違反の起きた場所から行う間接フリーキックを相手チームに与える。

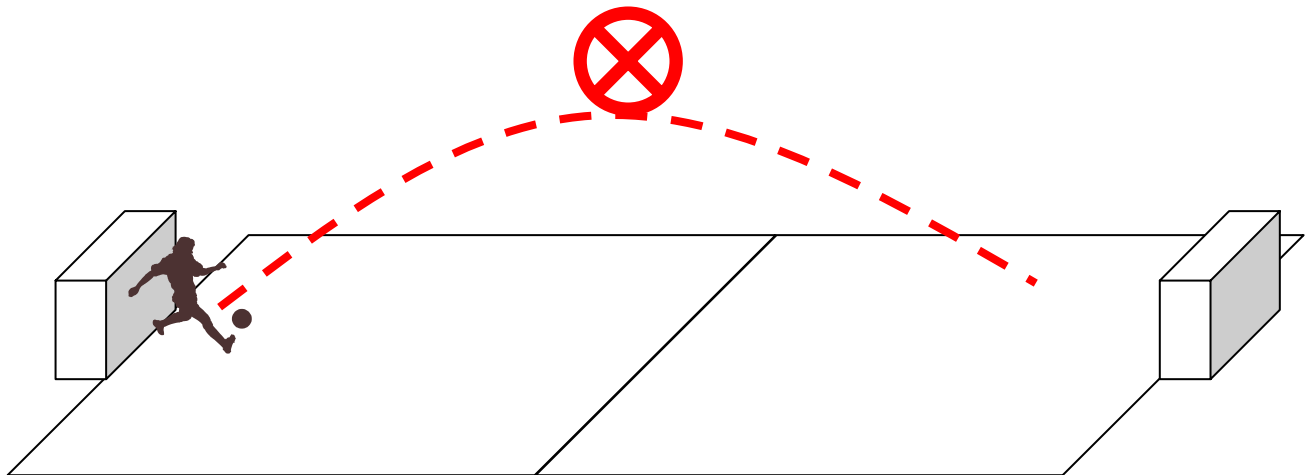
- ・ 危険な方法でプレーする。
- ・ 意図的に相手の前進を妨げる。
- ・ ゴールキーパーがボールを手から離すのを妨げる。
- ・ 競技者を警告する、あるいは退場させるためにプレーを停止する違反で、12条のこれまで規定されていないその他の違反を犯す。

間接フリーキックは違反の起きた場所から行う。ただし、その地点がペナルティエリア内の場合、違反の起きた場所に最も近いペナルティエリアライン上から間接フリーキックを行う。

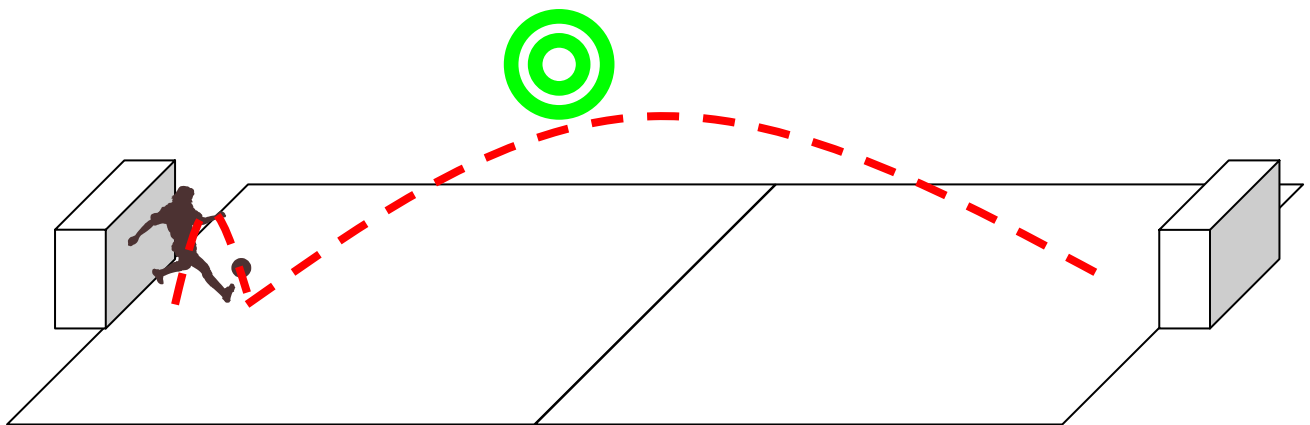


(第3種以下のフットサル競技会においては次の規則を適用する)

ゴールキーパーが手で投げた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェーラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。間接フリーキックは、ハーフウェーライン上の任意の地点から行われる。ゴールキーパーが手で投げるプレーには、ゴールキーパーが一度保持した後ボールから手を離してピッチ面につく前にそのボールをける(パントキック)プレーも含まれる。



ゴールキーパーが投げるまたはパントキックでハーフウェーラインを越えると反則となる



ドロップキック、ピッチ上のボールをけてハーフウェイラインを越えるのはOK

ゴールキーパーから投げた(パントキックを含む)ボールが直接ハーフウェーラインを越えた場合ハーフウェーラインの任意の地点から相手チームの間接フリーキックとなる

第16条 キックイン

キックイン

キックインは、プレーを再開する方法のひとつである。

キックインから直接得点することはできない

キックインは

- ・地上、空中を問わず、ボール全体がタッチラインを越えたとき、または天井に当たったとき
- ・ボールがタッチラインを越えた場所から
- ・最後にボールに触れた競技者の相手競技者に与える

ボールと競技者の位置

ボールを

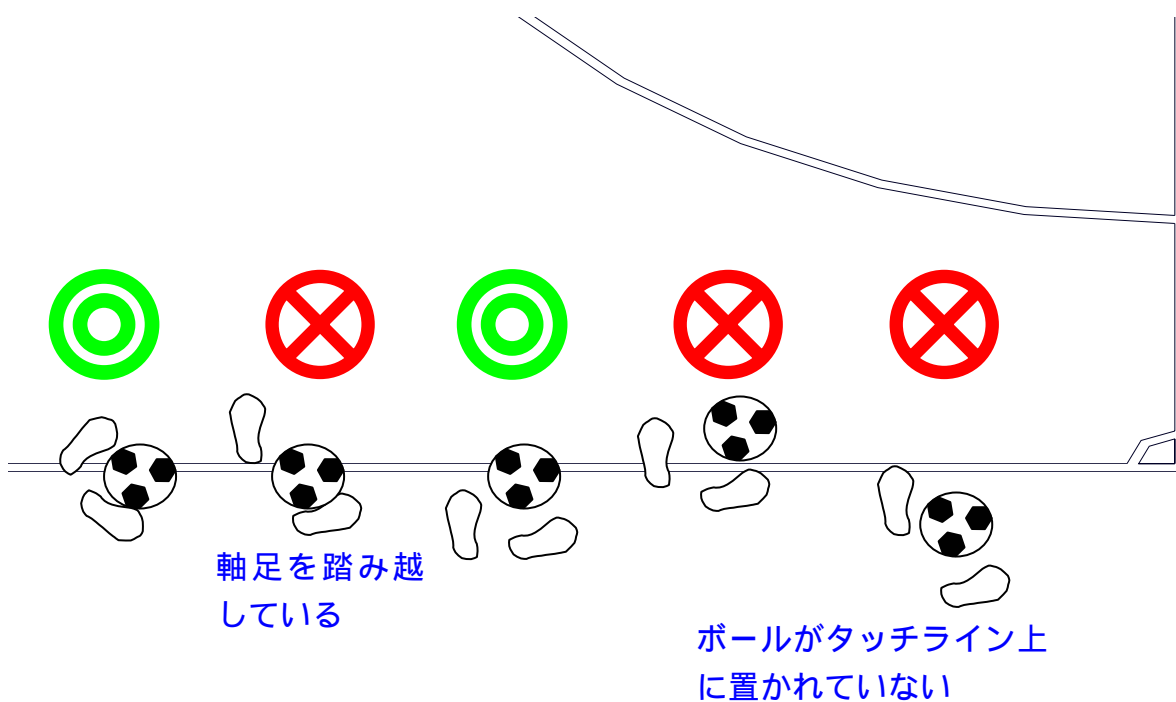
- ・タッチライン上に静止させなければならない。
- ・プレーに戻すために、任意の方向にけり入れることができる。

キックインを行う競技者は

- ・ボールをキックするとき、いずれかの足の一部をタッチライン上、またはタッチラインの外のピッチ面につける。

守備側のチームの競技者は

- ・少なくともキックインを行う地点から5 m離れなければならない。

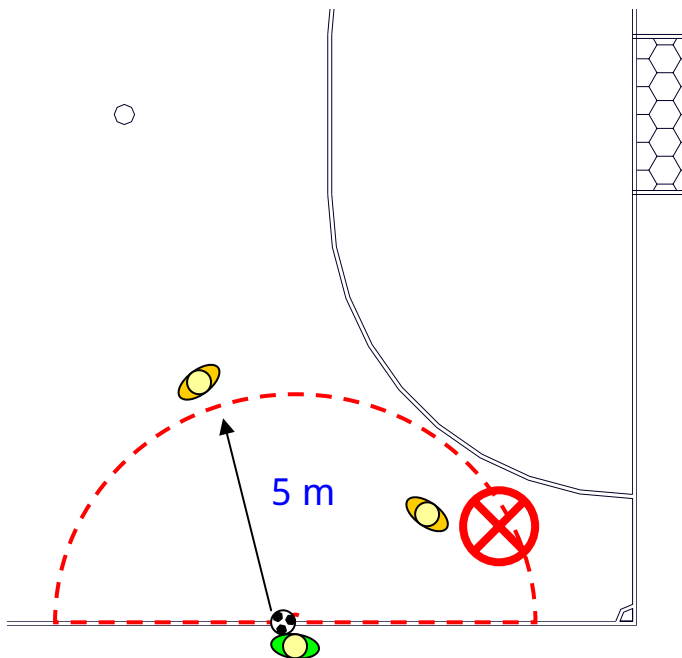


進め方

キックインを行う競技者は、ボールを保持してから4秒以内にキックインを行う。

キックインを行う競技者は、他の競技者がボールに触れるまで、再びボールに触れることはできない。

ボールは、けられるか触れられた後、直ちにインプレーとなる。



キックインの反則は相手チームのキックインとなる

違反と罰則

次の場合、間接フリーキックを相手チームに与える

- ・ 他の競技者がボールに触れる前に、キックインを行った競技者がボールを再び触れたとき、違反の起きた場所から間接フリーキックを行う。ただし、その地点がペナルティエリア内の場合、違反が起きた場所にもっとも近いペナルティエリアラインから間接フリーキックを行う。

次の場合、相手チームの競技者が再びキックインを行う。

- ・ キックインを正しく行わない。
- ・ ボールがタッチラインを越えた場所以外の位置からキックインを行う。
- ・ キックインを行う競技者が、ボールを保持してから4秒以内にキックインを行わない。
- ・ その他、本条に違反する。

キックインのとき、ボールをピッチ面に置かず、手で持ってパスする味方競技者を探す
キックインのとき、相手をボールから5 m以上離すように要求しながらパスする味方競技者を探す。

キックインを行なう振りをしたが急に味方競技者にキックインを任せる
これらは4秒にカウントされる場合がある

第 17 条ゴールクリアランス

ゴールクリアランスは、プレーを再開する方法のひとつである。

ゴールクリアランスから直接得点することはできない。

ゴールクリアランスは：

・ 攻撃側のチームの競技者が最後にボールを触れて、地上、空中を問わず、ボール全体がゴールラインを越え、第 11 条による得点とならなかったときに与える。

進め方

- ・ 守備側チームのゴールキーパーがペナルティエリア内の任意の地点からボールを投げる。
- ・ ボールがインプレーになるまで、相手競技者はペナルティエリアの外にいないなければならない。
- ・ 他の競技者がボールに触れるまで、ゴールキーパーはボールを再びプレーしない。
- ・ ボールは、ペナルティエリアの外に直接投げられたとき、インプレーとなる。



ゴールクリアランスを行なう時に相手競技者がペナルティエリア内にいる



ゴールクリアランスのボールを競技者がペナルティエリアで受ける（相手、味方ともに）

再度ゴールクリアランスを行なう

違反と罰則

ボールがペナルティエリアの外に直接投げられなかった場合：

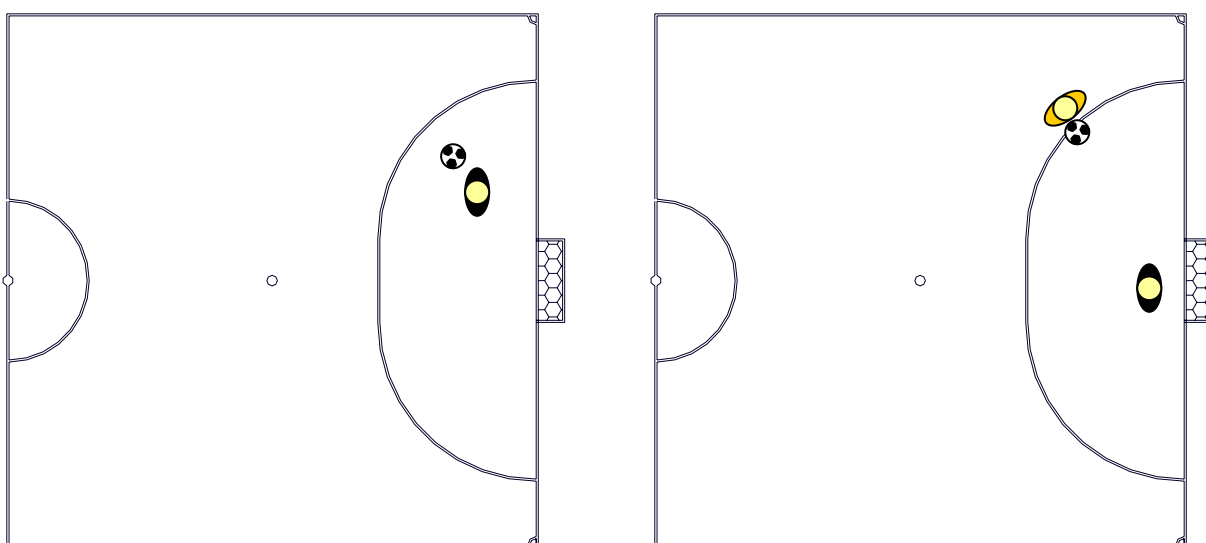
- ・ ゴールクリアランスを再び行なう。

ボールが一度インプレーとなり、相手競技者が触れる、またはハーフウェイラインを越える前に、ゴールキーパーが再びボールに触れた場合：

- ・ 違反の起きた場所から行なう間接フリーキックを相手チームに与える、ただしその地点がペナルティエリア内の場合、その場所に最も近いペナルティエリアライン上から間接フリーキックを行なう。

ゴールキーパーがボールを保持して4秒以内にゴールクリアランスを行なわなかった場合：

- ・ 間接フリーキックを相手チームに与え、違反が起きた場所にもっとも近いペナルティエリアラインからキックを行なう。



ゴールクリアランスを4秒以内に行なわなかった時は違反が起きた場所にもっとも近いペナルティエリアライン上から間接フリーキックを行なう

ゴールクリアランスのときに、ゴールキーパーがゴールラインを越えたボールを手をしているのかかわらず、パスする味方競技者を探すためなかなかペナルティエリアに入らないのも4秒にカウントされる場合がある。

(第3種以下のフットサル競技会においては次の規則を適用する)

ゴールクリアランスされた後、ボールが競技者に触れるかプレーされる、あるいはピッチ面に触れる前にハーフウェイラインを越えたときは、相手側チームに間接フリーキックを与える。間接フリーキックは、ハーフウェイライン上の任意の地点から行われる。